

研究テーマ 表や地図、文章にまとめる活動を通して、追究意欲を高める指導の工夫  
—第3学年 「農家の仕事」—

**【提案】**

「調べる」段階で、見学したことをカードに表すことで生産工程の追究を終えてしまう傾向が見られた。そこで、見学したことを時系列の表や白地図に表して見直すことで、新たな問いを生み追究意欲を高める。そして、問いに合わせた資料を提示するようにした。また、「生かす」では、自分たちと生産物や生産者との関わりについて表現し、一人一人の学習状況を把握できるようにした。



【市内で作られた野菜を紹介する宣伝ポップを書く児童の様子】

**1 実践のポイント**

**(1) 問いを生む教材との出会いと追究意欲を高めるまとめ方**

給食で多く使われている地元野菜を取り上げることで社会との距離を縮める。さらに、学校の畑で育てている野菜と農家の人が育てている野菜を比較することで、問いを見いだせるようにする。また、仕事の工程を表にしたり、生産物の輸送先を白地図にしてまとめたりすることで、さらなる問いを明らかにさせ、追究意欲を高めるようにする。

**(2) 生産者の思いを伝えようとする「地元野菜の宣伝ポップづくり」**

今までの学習を振り返った上で、地元野菜の栄養価のみを紹介する店の宣伝ポップを提示することで、農家の人の仕事を調べた後にどのような宣伝をしてお客さんに訴えたいかという課題意識をもたせる。また、授業者として児童の学習状況を把握するための評価資料としても活用する。

## 2 実践の位置付け

### (1) 小学校学習指導要領との関連

内容(2) 地域に見られる生産や販売の仕事について、学習問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア(ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。
- ウ(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
- イ(イ) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。

「地域に見られる生産の仕事」については、学校給食でも使われ、店にもなる市内の小松菜農家（若谷農園）を調べる対象とした。「生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていること」については、給食には若谷農園で作られた小松菜が使われていること、地域にある広大な畑を使い工夫と努力をして新鮮な小松菜を大規模生産していること、小松菜は市内や市外の店に運ばれて私たちが安全で新鮮な野菜を食べられるとともに、そのような農家は市内に多くあることを理解させることとした。「白地図などにまとめること」については、児童が生産工程を表にし、輸送先を白地図に記入させたり、学習のまとめに宣伝ポップをつくらせたりすることとした。

### (2) 実践のポイントの学習評価との関連

- ・効果的・効率的な評価のための適切な評価場面の設定と精選

「小松菜ができるまで」においては、表にまとめることで生産者の工夫や努力とその意味についての理解させ、さらなる追究意欲を高める上で有効であると考え行った。「小松菜の輸送先」においては、白地図にまとめることで小松菜の生産と生活とのつながりについての理解、さらなる追究意欲を高める上で有効と考え行った。

- ・子どもをよりよく見取るための多様な評価方法の実施と教師の見取り

「宣伝ポップ」においては、文章にまとめることで小松菜の生産工程の工夫や努力、生産者と自分たちの生活との関わりについて学習状況を把握する上で有効と考えられるために行った。

## 3 実践の内容

### (1) 小単元の目標と評価規準

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、生産の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることを通して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現し、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①仕事の種類や産地の分布、生産の工程などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、生産に携わる人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを表や白地図、文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。	①仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して問いを見だし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②生産者の工夫や努力と自分たちの食生活を関連付けて考え、表現している。	①生産の仕事について、予想や学習計画を立てて主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

(2) 指導計画と評価計画（10時間）




※網掛けは、評価したことを記録に残す場面


○内の数字は時間を表す。

知：知識・技能 思：思考・判断・表現

< >内は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つかむ	<p>①給食で使われる材料を献立表などから調べ、作物の産地を読み取り、特徴を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地</li> <li>・市内の東と西側に多い</li> <li>・市外や県外の生産物</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p>  <p>市内の農業生産分布図を読み取る児童</p>	<p>知① 市内では農作物が多くつくられていることや産地の分布を理解している。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の献立表</li> <li>・栄養士の話</li> <li>・市の主な作物の生産額</li> <li>・さいたま市農業生産分布図</li> </ul>
	<p>②学校の野菜畑と若谷さんの小松菜畑の写真を比べることなどを通して、学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の様子</li> <li>・畑の広さ</li> <li>・収穫量</li> <li>・はたらく人</li> <li>・ビニルハウス</li> <li>・鮮度</li> <li>・味</li> </ul> <p>・虫に食われていないのはどうしてだろう。 ・多く収穫できる工夫があるのかな。</p>  <p>若谷さんの小松菜畑</p>  <p>学校の野菜畑</p> <p>学習問題</p> <p>若谷さんのおいしい小まつ菜はどのように育てられ、どうやってわたしたちにとどけられるのだろう。</p>	<p>思① 小松菜畑の様子から問いを見だし、仕事の様子について考え、表現している。〈発言・ノート〉</p> <p>態① 予想を立ててどのようなことを調べたいか考えている。〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の畑の写真</li> <li>・若谷さんの畑の写真</li> <li>・若谷さんの収穫の様子とビニルハウスの写真</li> <li>・小松菜の実食</li> </ul>
調べる	<p>③生活科で野菜を育てた経験から、若谷さんの小松菜の育て方を予想し、見学メモを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種まき</li> <li>・水やり</li> <li>・肥料</li> <li>・しゅうかく</li> </ul> <p>④⑤実際に若谷さんの畑に見学に行き、話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の約束</li> <li>・質問の仕方</li> </ul>	<p>知① 小松菜の生産工程について見学・調査して仕事の様子を理解している。〈見学メモ〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・露地栽培で小松菜ができるまでの写真</li> <li>・若谷さんの畑</li> <li>・機械や道具</li> <li>・若谷さんの話</li> </ul>
	<p>⑥見学から若谷さんの小松菜づくりの手順を振り返り、表「小松菜ができるまで」にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土づくり</li> <li>種まき</li> <li>育てる</li> <li>収穫</li> <li>・機械</li> <li>・雨水</li> <li>・1日1000kg収穫</li> </ul>	<p>知① 調べたことを表にまとめて仕事の様子を理解している。〈表〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学メモ</li> </ul>

	<p>⑦若谷さんの作物カレンダーや写真から、工夫を読み取り、表「小松菜ができるまで」に足す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬も収穫できるビニルハウス</li> <li>・予冷施設</li> <li>・手作業でしゅうかく</li> <li>・機械で袋づめ</li> <li>・土づくり</li> <li>・シートかけ</li> <li>・畑ごとに種まきと収穫の日にちをずらす</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p>	<p><b>思②</b> 生産者の工夫や努力と自分たちの食生活を関連付けて考え、表現している。〈表〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若谷さんの作物カレンダー</li> <li>・土づくりとシートかけの写真</li> <li>・収穫時期をずらすイラスト</li> </ul>
	<p>⑧収穫後小松菜はどこへ運ばれるのかを調べ、輸送先を地図「小松菜の輸送先」にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校 直売所 市場 店</li> <li>・保冷トラック</li> <li>・市内、県内、県外</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p>	<p><b>知②</b> 調べたことを白地図にまとめ、小松菜の生産は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。〈白地図〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松菜の出荷の写真</li> <li>・運ぶ人の話</li> <li>・運び先の写真</li> <li>・白地図 (さいたま市)</li> </ul>
まとめる	<p>⑨作成した表や地図を振り返り、自分たちの食生活と関連付けて学習問題のまとめを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手作業</li> <li>・土づくり</li> <li>・冷やし続ける</li> <li>・市外にも運ばれる</li> </ul> <p><b>学習問題の結論</b></p> <p>若谷さんの小まつ菜は、①土づくり②種まき③育てる④しゅうかくの順でつくられる。機械や人の手を使って、毎日畑をよく観察しながらたくさんの手間をかけて育てている。畑に合わせて肥料を変えたり、シートをかけて虫に食われないようにしたり、時期をずらして種をまいてしゅうかくしたりする工夫をして、多くの量をしゅうかくする。冷やしたトラックで出荷した小まつ菜は、直売所や学校、市内や県内などの市場へ行き、店で販売されることを通して、わたしたちはいつでも新鮮な小まつ菜をおいしく食べられる。</p>	<p><b>知②</b> 小松菜の生産は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小松菜ができるまで」</li> <li>・「小松菜の輸送先」</li> </ul>
生かす	<p>⑩若谷さんの小松菜を紹介する宣伝ポップを考え、書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元野菜</li> <li>・工夫と努力した野菜</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p>	<p><b>思②</b> 生産者の工夫や努力と自分たちの食生活を関連付けて考え、表現している。〈宣伝ポップ〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店の野菜売り場のポップ</li> </ul> 

#### 4 実践結果と考察

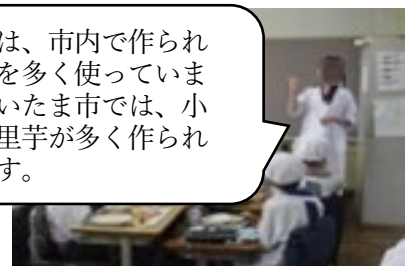
##### (1) 問いを生む教材との出会いと追究意欲を高めるまとめ方

###### ①給食に使われる野菜や学校の畑で育てている野菜との比較を通して教材と出会う

献立表をきっかけに栄養士の話から市内には野菜を生産する農家があることを知り、実際に給食で食べることで学習への興味を高めさせる。学校の畑と小松菜農家の若谷さんの畑を比較することで、問いを生むことができるようにする。

実際に食べることができることは、本教材の魅力であると考え。また、畑の比較をすることで児童は多くの疑問をもつことができた。その際、葉の色や形、畑の広さなど観点を与えることでより多くの疑問が生まれると考える。

給食では、市内で作られる野菜を多く使っています。さいたま市では、小松菜や里芋が多く作られています。



栄養士から市内で作られる野菜の説明を聞く

②(7) 追究意欲を高めるまとめ方 (表「小松菜ができるまで」)

農家の見学で撮った写真を時系列に整理することで、小松菜の生産工程を学級内で確認することができるようにする。また、表を見返すように促し、まだわからないことを出し、どのような資料があれば解決できそうか考えさせるようにする。

まだわからないことはありますか？  
どんな資料があったらわかるかな。

シートをかけたのはどうしてだろう？  
1年に何回育てるのだろう？

もう一回若谷さんに聞いてみたい。  
1年間の仕事の内容を知りたい。

表「小松菜ができるまで」

シートをかける  
床がこまづなを空けないよう  
し、シートをかまづなで覆って  
います。シートをかかると土が  
いばいでも土が温まり、よく  
育ちます。

児童の疑問に合わせて提示した資料

見学では、児童によって差があることや時間や時期によっては見ることで見ることができない工程があるため、一度工程を表に整理することは有効であった。表を見返すことで、期間や工程の意味について新たな疑問をもち、意欲的に関係資料を読み取り、表に書き足すことができた。

(4) 追究意欲を高めるまとめ方 (地図「小松菜の輸送先」)

農家や市場、店の人の話を基に、白地図に輸送先を書き込むことで、小松菜の行き先が具体的にわかるようにした。輸送先までの距離や使われている機械などに注目させて、輸送方法や輸送の工夫について問いが生まれるようにする。

長野県に運ばれると言っていたけど、  
どこにあるのだろう。遠いところだから  
保冷トラックを使って運ぶのかな。

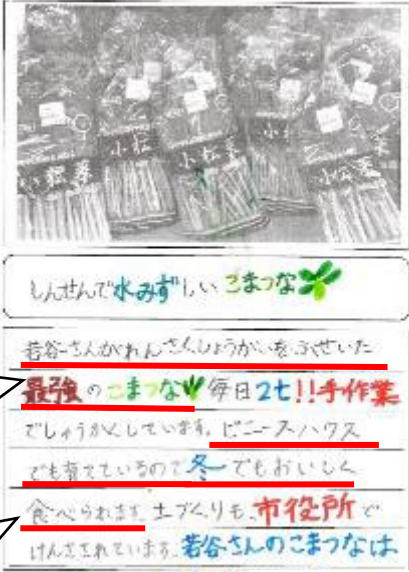
地図から輸送先を読み取る児童

地図「小松菜の輸送先」

輸送先をまとめることで、自分たちと生産物のつながりを実感することができた。野菜の「鮮度」に注目することで、生産者だけでなく輸送する人や市場の人、販売する人など多くの人の働きがあることを具体的に理解することができた。

## (2) 生産者の思いを伝えようとする「地元野菜の宣伝ポップづくり」


店に並ぶ小松菜の栄養価のみを伝える宣伝ポップの写真を提示し、自分たちならどのような宣伝ポップをつくるのか考えさせる。その際、今までの学習の成果物（表や地図）を活用し、どのようなことを客に伝えたいのか話し合った上で行う。



具体的な取組と価値が書かれている

具体的な取組と目的が結びついている

具体的な取組の記述	○
価値や目的の記述	○
根拠のある記述	○



取組の総括が書かれている

目的とお客の視点が書かれている

具体的な取組の記述	△
価値や目的の記述	○
根拠のある記述	△

児童の作成した宣伝ポップ

小松菜の実物や作成した表や地図を活用することで、既習を基にして宣伝ポップを書くことができた。実際に書いたものを若谷農園の方に見ていただいたり、保護者にアドバイスをいただいたりすることで、より社会とつながりをもった表現が期待できると考える。

## 5 研究の成果と今後の課題

### 〈成果〉

- ・農園の見学だけでなく、実際に試食すること、栄養士や輸送する人の話、店のポップなど実際の社会に関わる人や物に出合わせることで、意欲的に児童は学習に取り組むことができた。
- ・調べたことを表現する活動を取り入れたことで、新たな問いが生まれ、問いに合わせた資料提示をすることができた。また、事実だけをまとめている児童には、「なぜその工夫や努力をするのか」「客はどのような小松菜を買いたいと思うのか」など、視点を与えて考えさせることができた。

### 〈課題〉

- ・まとめることを通して生まれた問いをどのように解決するのか、解決の手段や見通しまで考えさせて、主体的に追究できる児童を今後育てていきたい。
- ・前単元で販売の仕事の学習を行ったが、生産者が工夫や努力をしてつくった物をどのように無駄なく効率的に売ることについて予想することで、生産と販売の学習を関連させて学習展開をすることができると考え、今後の実践につなげていきたい。